

第3章 施策の展開方向 ビジョンの体系

基
理
本
念

「越前おおの型農業」の次世代への継承

5年後の農業の
ありたい姿

担い手農家をはじめ、多様な農業者による営農活動が継続的に進める環境が整うとともに、農産物が家庭や飲食店で楽しめる地産地消の取組が進んでいます。また、農業者や集落の活動により、農地が保全され、活力ある農山村が引き継がれています。

ビジョン推進
の基本的視点

SDGsの推進 ウェルビーイングの向上 ジェンダーギャップの緩和 シェアリングエコノミーの推進 中部縦貫自動車道の県内全線開通を見据えた取組

ビジョンの施策の展開

分
野

基本方針

5年後の各分野
のありたい姿

基本施策
・
施策の
展開方向

分野1 「農業」の振興

地域経済を支える越前おおの型農業の継承
＜農業者の育成と支援＞

- ・多様な農業者による営農活動が継続的に進める環境が整っています。
- ・越前おおの型農業が次世代の担い手農家に引き継がれ、地域経済を支えています。

1 担い手農家の
育成と支援

- (1)後継者の育成と支援
- (2)担い手農家のステージアップ支援
- (3)畜産農家の支援

2 新規就農者や
女性農業者など
の活躍支援

- (1)新規就農者の支援
- (2)就農希望者と受入農家の発掘とマッチング
- (3)女性農業者などのチャレンジ環境づくり

3 スマート農業
の普及

- (1)スマート農業の普及啓発
- (2)スマート農業の導入支援
- (3)スマート農業技術の活用促進

4 中小規模農家の
再生支援

- (1)中小規模農家の機械・施設の導入支援
- (2)担い手農家へのステージアップ支援

5 集落営農組織
の統合支援

- (1)集落営農組織の統合支援
- (2)広域営農集落組織の立ち上げ支援

分野2 「儲かる農業」の推進

チャンスを生かした「儲かる農業の推進」
＜農林水産物の魅力向上と販売支援＞

- ・中部縦貫自動車道県内全線開通などの大きなチャンスを生かし、越前おおの産農林水産物が多く販売され、農業者の所得が向上しています。

1 儲かる農業の
展開

- (1)越前おおの型 水田農業の展開
- (2)越前おおの型 園芸の展開

2 越前おおの米や
特産作物の魅力
向上

- (1)越前おおの米の魅力向上
- (2)特産作物の魅力向上
- (3)環境にやさしい農業による農産物の魅力向上
- (4)内水面の魅力向上

3 特産作物の
生産振興

- (1)特産作物の生産振興
- (2)サトイモの再生振興

4 多様な販売先
の確保

- (1)道の駅での販売促進
- (2)越前おおの農林楽舎による販売促進
- (3)ふるさと納税返礼品・七間朝市やその他販売先の確保

分野3 「農山村」の振興

イキイキと暮らす農山村づくり
＜農地の維持と継承＞

- ・農業者や集落の活動により、農地が保全され、住んでいる人がイキイキと暮らし、活力ある農山村が引き継がれています。

1 農地の維持と
継承

- (1)農地の維持と有効利用
- (2)農地の多面的機能の維持

2 農山村の継承

- (1)農山村の活性化
- (2)新たなチャレンジ支援

3 農業生産基盤
の整備

- (1)農地や農業用施設の維持と更新
- (2)災害に強い農地整備

4 農山村を守る
鳥獣害対策

- (1)地域ぐるみの鳥獣害の防止対策
- (2)鳥獣の捕獲対策

分野4 「食守」の振興

食守が引き継がれている越前おおの
＜地産地消と食育活動の推進＞

- ・家庭の食卓に越前おおの産農林水産物を使った料理が並び、みんなが笑顔で食べています。
- ・越前おおのの食文化が次世代に引き継がれています。

1 こどもの食と
農の学びの充実

- (1)こどもに食と農の重要性を伝える取組
- (2)農林漁業を「知る・見る・食べる」体験の提供

2 「大人の食守」
の推進

- (1)「大人の食守」の普及啓発
- (2)大人の食と農林漁業への理解の醸成

3 地産地消の推進

- (1)食卓と生産現場の距離を縮める取組
- (2)給食における地産地消の取組
- (3)越前おおの産農林水産物の販売促進

4 越前おおのの
食文化の継承

- (1)郷土料理の継承
- (2)越前おおのの食文化の普及啓発

第3章 施策の展開方向

分野1 「農業」の振興

基本方針 …… 地域経済を支える越前おおの型農業の継承（農業者の育成と支援）

5年後の
ありたい姿 …… 多様な農業者による営農活動が継続的に行える環境が整っています。
越前おおの型農業が次世代の農業者に引き継がれ、地域経済を支えています。

基本施策 ……

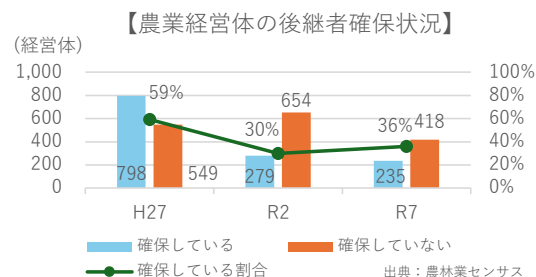
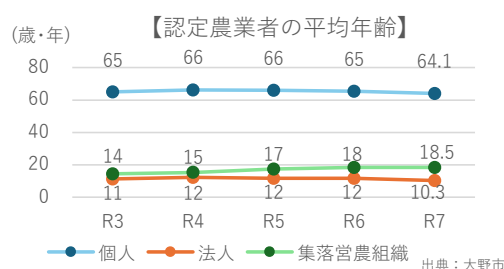
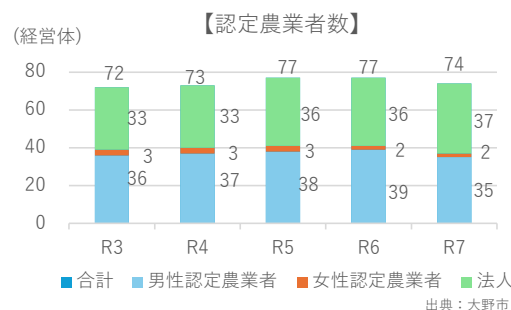
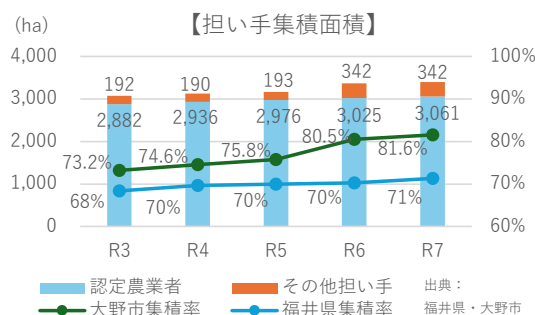
- 施策1 担い手農家の育成と支援
- 施策2 新規就農者や女性農業者などの活躍支援
- 施策3 スマート農業の普及
- 施策4 中小規模農家の再生支援
- 施策5 集落営農組織の統合支援

施策1 担い手農家の育成と支援

< 分野1 「農業」の振興 >

現状と課題

- ・担い手農家の農地集積率は、令和7年度で81.6%、県平均を上回る水準
- ・令和7年度の担い手農家は135経営体（うち集落営農組織48経営体）、そのうち認定農業者は74経営体、経営体数に大きな変動はなく固定化
- ・個人の認定農業者の平均年齢は、令和7年度で64.1歳と高齢化、アンケートでは担い手農家の63%が「後継者を確保できていない」と回答、後継者の確保・育成が喫緊の課題
- ・集落営農組織は、法人設立から20年程度が経過、中核を担ってきた農業者の高齢化が進み、労働力も人材も不足、専従者雇用の組織も少ない。
- ・経営分析や課題の整理、解決方法の立案など担い手農家のみで解決することが困難、専門家などによるコンサルティング支援が必要



施策の方向性

(1) 後継者の育成と支援

- ・担い手農家の「みらいプランづくり（経営継承計画などの立案）」を伴走支援
- ・集落営農組織の課題整理や専門家による経営分析など組織内の話し合いを中心に伴走支援
- ・次世代への継承に必要な農業機械や施設の導入支援

(2) 担い手農家のステージアップ支援

- ・担い手農家の経営改善によるステージアップを支援
- ・農地の集積・集約による経営規模の拡大を支援
- ・経営改善に必要な農業機械や施設の導入を支援
- ・認定農業者の育成とステージアップを支援

(3) 畜産農家の支援

- ・繁殖管理やヘルパー利用など働きやすい環境づくりを支援
- ・農業機械や施設の導入による作業効率化を支援
- ・予防接種や衛生管理など家畜の疾病対策への支援

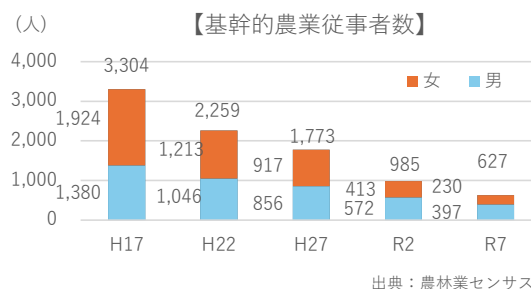
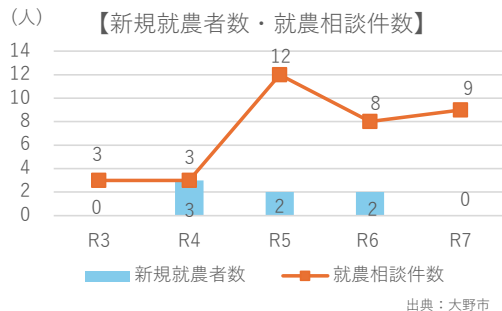


施策2 新規就農者や女性農業者などの活躍支援

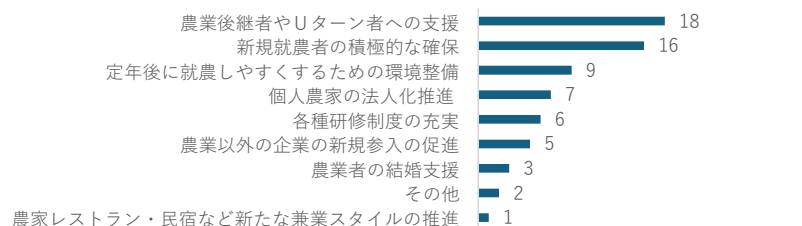
< 分野1 「農業」の振興 >

現状と課題

- ・新規就農者数は、令和3年度から令和7年度までの累計で7人（年平均1.4人）、多様なルートから多様な人材の確保が必要
- ・新規就農希望者から市への相談件数は、年平均10件程度と低い水準、大野市からの積極的な普及啓発が必要
- ・主に農業に従事している者（基幹的農業従事者）は、平成27年から令和7年までに全体で65%減少、さらに女性は75%と大幅に減少、女性が働きやすい環境の整備が必要
- ・アンケート結果では、Uターン者、非農家出身者や移住者などへの積極的な支援が必要と考える担い手農家が多い。



【地域の担い手育成・確保に必要なこと（担い手農家対象）】



施策の方向性

（1）新規就農者の支援

- ・サポートチーム（県・市・J A）による就農相談の充実・就農後の伴走支援
- ・国と県の支援制度を活用した就農資金による支援
- ・経営開始・安定に必要な農業機械・施設の導入支援

（2）就農希望者と受入農家の発掘とマッチング

- ・農業大学校・農業高校、園芸カレッジなどへの普及啓発を通じた就農希望者の発掘
- ・普及啓発による受入農家の発掘
- ・就農希望者と受入農家とのマッチング機会の提供

（3）女性農業などのチャレンジ環境づくり

- ・女性が農業にチャレンジできる環境づくりを支援（農業機械や施設の導入支援）
- ・女性リーダーの育成を支援
- ・障がい者が農業分野で活躍しやすい環境づくりを支援

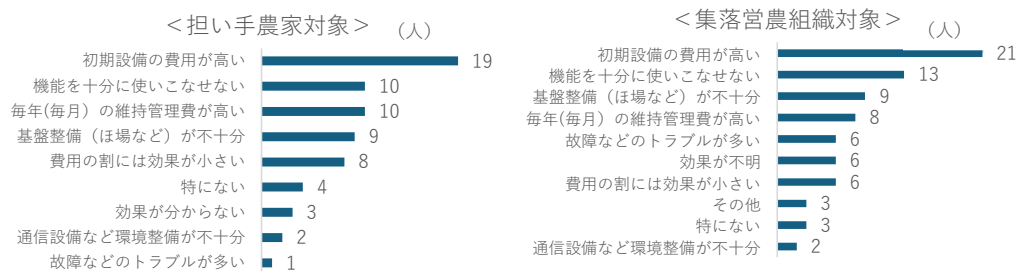
施策3 スマート農業の普及

< 分野1 「農業」の振興 >

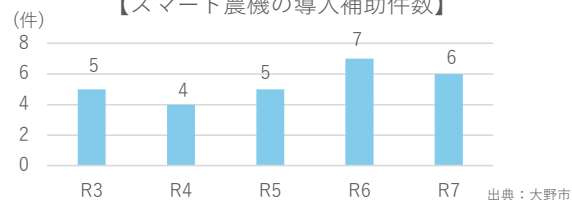
現状と課題

- ・令和3年度から令和7年度までの5年間で、自動操舵機能付きのトラクターや田植機などのスマート農機の購入に対する補助を27件実施
- ・スマート農業の導入は一般的な農業機械より高コスト、普及拡大を図るためには継続的な支援が必要
- ・農業用ドローンの操作技術習得は、農業者にとって時間的・経済的な負担が大きい。
- ・高齢化や離農の進行による担い手不足の中、農業機械オペレーターの確保・育成が必要
- ・スマート農業導入後、取得した作業データや営農データを活用して、生産性の向上や農業経営の改善につなげている農業者は少ない。

【スマート農機導入の課題・不安な点】



【スマート農機の導入補助件数】



施策の方向性

(1) スマート農業の普及啓発

- ・費用対効果の「見える化」によるスマート農業の普及啓発
- ・スマート農業の体験機会の提供

(2) スマート農業の導入支援

- ・直進アシストや自動操舵機能などを搭載した田植機、トラクター、ドローン、草刈機などのスマート農機の導入を支援
- ・農業用ドローン操縦者の育成を支援
- ・スマート農機の導入による作業の省力化により働きやすい環境づくりを支援

(3) スマート農業技術の活用促進

- ・栽培管理システムなどの生産性の向上や経営管理の合理化を目的としたサービスやシステムの導入を支援し、スマート農業技術の活用を促進

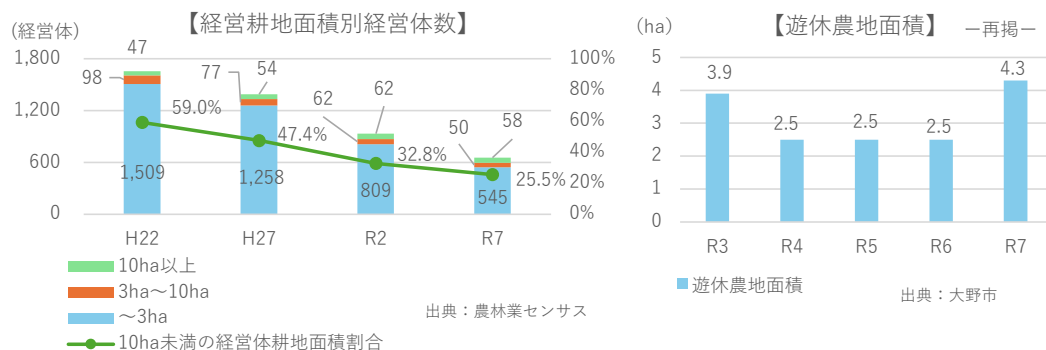


施策4 中小規模農家の再生支援

< 分野1 「農業」の振興 >

現状と課題

- ・10ha未満の中小規模農家が、市内農地の25.5%を耕作
- ・10年間で、740戸の中小規模農家が離農
- ・中小規模農家は、農業機械を更新時に国や県の補助制度を活用できないケースが多く、更新費用を自己負担しており、農業経営への負担が大きい。
- ・担い手農家への集積が進み、効率化が進む一方で、作業効率の悪い小規模の農地を中小規模農家が耕作
- ・中小規模農家の離農により、遊休農地の増加が懸念され支援が必要



施策の方向性

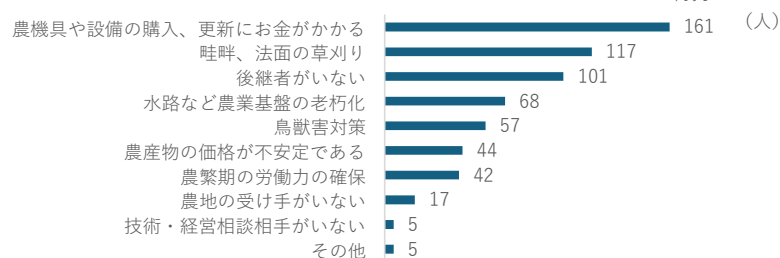
(1) 中小規模農家の機械・施設の導入支援

- ・中小規模農家の経営維持・発展に必要な農業機械や施設の導入を支援

(2) 担い手農家へのステージアップ支援

- ・専門家の経営分析による経営改善や規模拡大などを支援
- ・法人や認定農業者などの担い手農家を目指す取組への支援
- ・中小規模農家の担い手農家へのステージアップに必要な農業機械や施設の導入を支援

【営農する上で困っていること（農業者対象）】

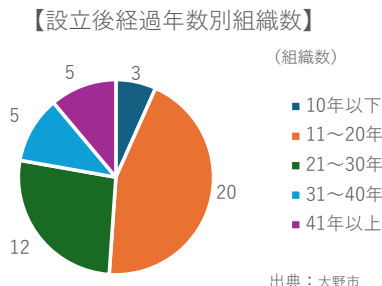
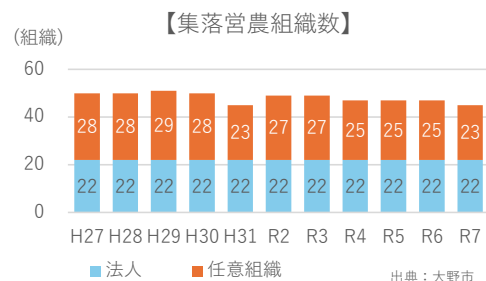


施策5 集落営農組織の統合支援

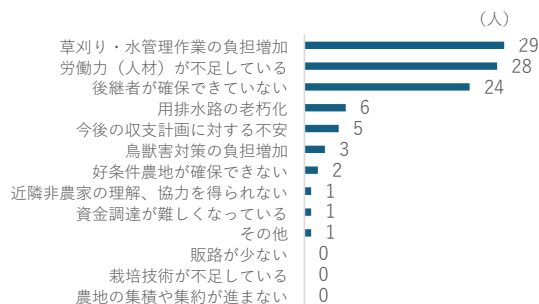
< 分野1 「農業」の振興 >

現状と課題

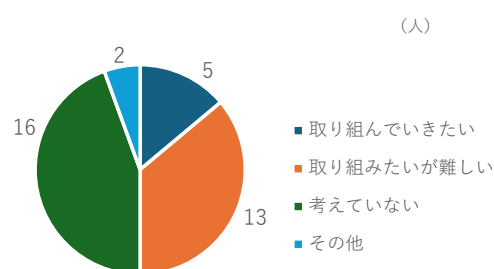
- ・集落営農組織は、令和7年度で46団体、大きな変動はなく固定化
- ・集落営農組織の統合は、過去10年間で実績がない。
- ・単独の集落営農組織では、役員の後継者や草刈りなどの農作業従事者の不足、若者の農業離れなどの課題解決が困難
- ・集落営農組織の統合を円滑に進めるためには、専門家やコーディネーターによるきめ細かな支援が必要
- ・広域化を実現している集落営農組織として、乾側地区がある。



【農業経営の課題、不安（集落営農組織対象）】



【集落営農組織の広域化について（組織対象）】



施策の方向性

（1）集落営農組織の統合支援

- ・複数の集落営農組織の統合に向けた話し合いや専門家の派遣などを支援
- ・複数の集落営農組織の統合に向けた農業機械や施設の導入を支援

（2）広域営農集落組織の立ち上げ支援

- ・集落営農組織の広域化に向けた組織内の話し合いや専門家による経営分析などを伴走支援
- ・国や県の制度を活用して、売上1億円を超えるリーディングファームの育成を支援
- ・集落営農組織の広域化に向けた農業機械や施設の導入を支援

第3章 施策の展開方向

分野2 「儲かる農業」の推進

基本方針 …… チャンスを生かした「儲かる農業」の推進（農林水産物の魅力向上と販売支援）

5年後の
ありたい姿 …… 中部縦貫自動車道県内全線開通などの大きなチャンスを生かし、越前おおの産農林水産物が多く販売され、農業者の所得が向上しています。

基本施策 ……

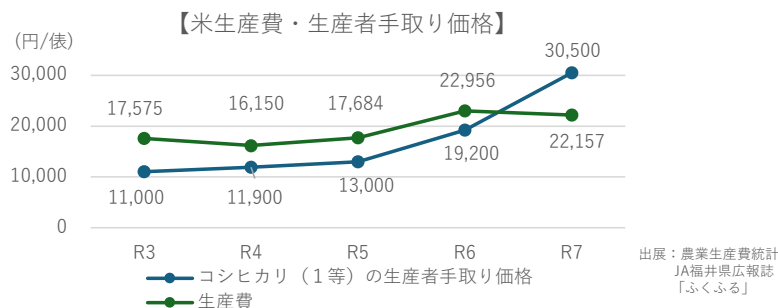
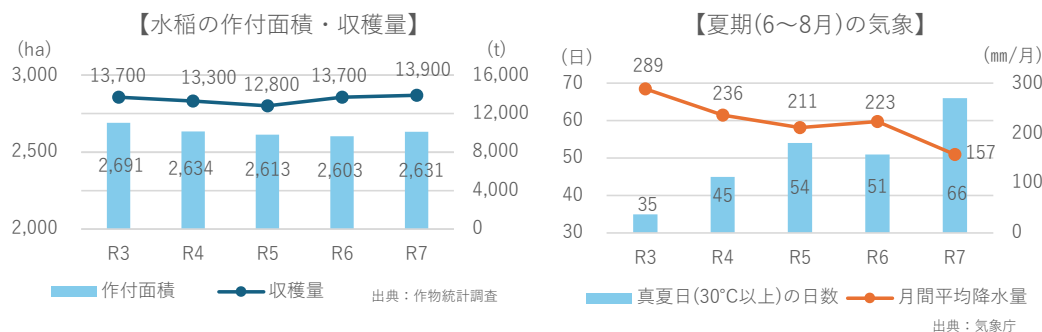
- 施策1 「儲かる農業」の展開
- 施策2 越前おおの米や特産作物の魅力向上
- 施策3 特産作物の生産振興
- 施策4 多様な販売先の確保

施策1 「儲かる農業」の展開

< 分野2 「儲かる農業」の推進 >

現状と課題

- ・「令和の米騒動」による供給不足を背景に、令和7年度の米の生産者手取り価格（JA・コシヒカリ・一等）は、一時的に30,500円/俵まで急騰
- ・令和8年度は、玄米のコスト指標価格が20,535円/俵で、安定した農業経営を維持するためには、この価格を上回る水準の確保が必要
- ・近年の夏季の記録的な猛暑により、米の品質は低下傾向にある。
- ・福井県においては、高温耐性を持つ「いちほまれ」を普及
- ・米価の変動予測が困難なため、主食用米に依存した経営だけでなく、園芸も組み合わせた複合経営によるリスク分散が必要



施策の方向性

(1) 越前おおの型 水田農業の展開

米価の変動に注視しながら、高収益の越前おおの型 水田農業を展開

- ・高品質、多収穫、低コストの米による水田農業の普及（いちほまれの普及など）
- ・米の需要動向を踏まえた大麦作付け後の大豆やそば作付け体系の推進
- ・米価の変動に関する情報の収集

(2) 越前おおの型 園芸の展開

園芸を組み合わせた複合経営により、高収益の農業を展開

- ・労働力やリスク分散のため、園芸作物への転換を推進
- ・新たな園芸作物の推進



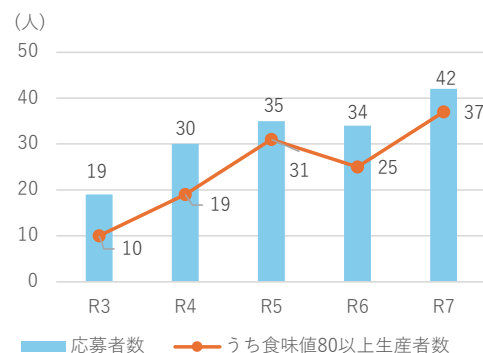
施策2 越前おおの米や特産作物の魅力向上

< 分野2 「儲かる農業」の推進 >

現状と課題

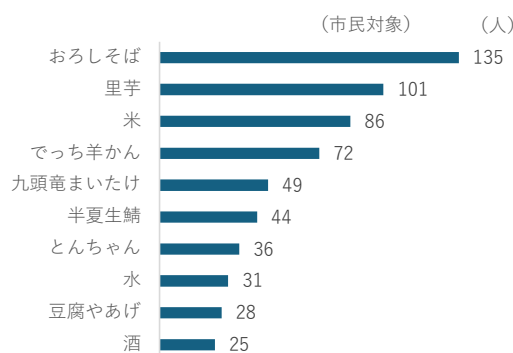
- ・大野市は、盆地特有の昼夜の寒暖差に恵まれ、県内でも特に米や野菜の品質が高い地域
- ・越前おおの米は、県内ではそのおいしさが知られている一方で、全国的な知名度は十分ではなく、ブランド化が必要
- ・大野市の農林水産物のうち、サトイモとそばは県内での認知度が高い。

【越前おおの美味しいお米コンテスト応募実績】

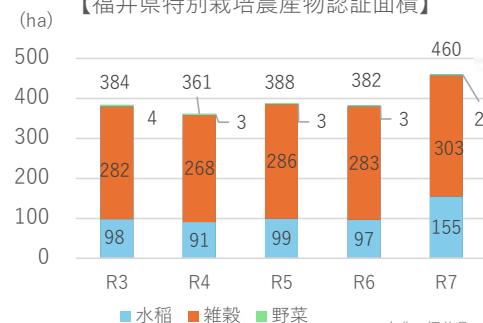


出典：大野市

【市外の人に食べてもらいたい大野の食 10選】



【福井県特別栽培農産物認証面積】



出典：福井県

【越前おおの美味しいお米コンテスト】



施策の方向性

(1) 越前おおの米の魅力向上

- ・「越前おおの美味しいお米コンテスト」の開催
- ・おいしいお米に特化した産地認定制度などによる「越前おおの米」のブランド化
- ・米の食味の向上や生産体制の強化に必要な技術や機械などの導入を支援
- ・越前おおの米のプロモーションによるブランド化

(2) 特産作物の魅力向上

- ・「越前おおの新そばまつり」による大野在来そばのブランド強化
- ・サトイモとそばのプロモーションの実施
- ・道の駅周辺や「スターランドさかだに」などでの体験農園による農林水産物のブランド化
- ・新たな特産作物の発掘・育成と六次産業化による農林水産物のブランド化

(3) 環境にやさしい農業による農産物の魅力向上

- ・化学肥料・化学農薬を低減した環境にやさしい農業の普及
- ・市内で製造される牛ふん堆肥の普及
- ・福井県特別栽培農産物認証制度などによる農産物の高付加価値化

(4) 内水面の魅力向上

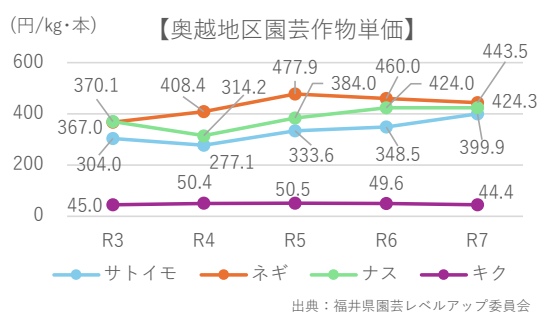
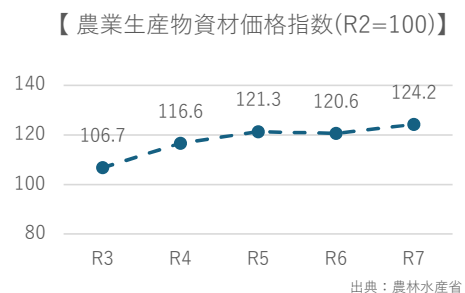
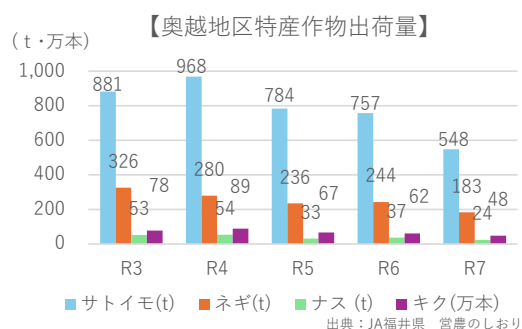
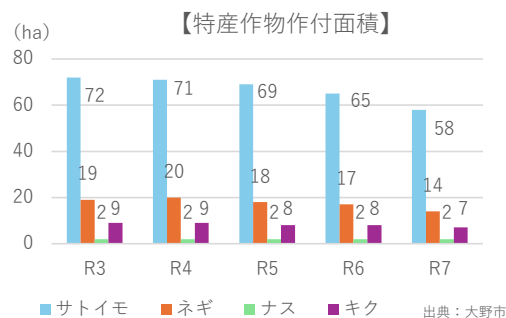
- ・アユなどの淡水魚のPR活動や保全活動の支援

施策3 特産作物の生産振興

< 分野2 「儲かる農業」の推進 >

現状と課題

- ・サトイモ、ネギ、ナス、キクなどの特産作物の作付面積が大幅に減少、生産の中心を担ってきた中小規模農家の高齢化による離農や他作物への転換の影響が大きい。
- ・サトイモの生産面積の大幅な減少により、市場への安定供給の確保が困難、ブランドの認知度や信頼性の低下が懸念されるため、生産面積の拡大に向けた取組が必要
- ・近年の物価高騰により生産コストが大幅に上昇、一方で価格転嫁が十分に進まず、農業経営を圧迫



施策の方向性

(1) 特産作物の生産振興

- ・ネギ生産の大規模化への支援
- ・ナスやキクの生産維持のための支援
- ・穴馬スイートコーンや穴馬かぶら、九頭竜まいたけの生産支援
- ・特産作物や園芸作物の生産・出荷拡大のための農業機械や施設の導入を支援
- ・県、JAと連携した新たな特産作物の生産支援

(2) サトイモの再生振興

- ・サトイモの生産力の再生支援
- ・サトイモ生産の省力化のための農業機械や施設の導入を支援
- ・サトイモの加工のための農業設備などの導入を支援

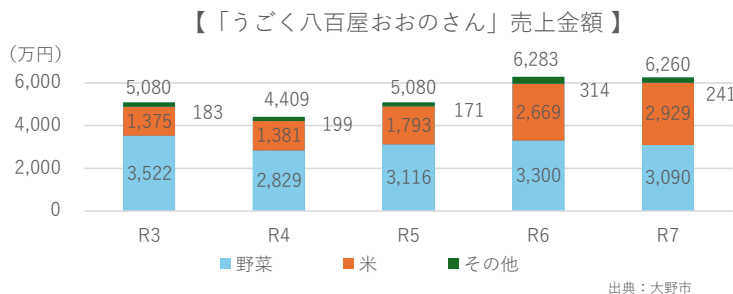
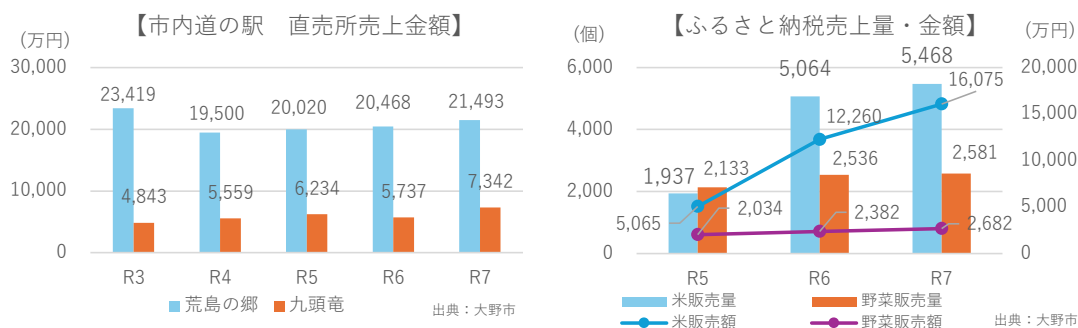


施策4 多様な販売先の確保

< 分野2 「儲かる農業」の推進 >

現状と課題

- ・令和3年4月に「越前おおの荒島の郷」がオープン、令和7年度の道の駅の直売所の売上額は2億8,835万円
- ・越前おおの農林楽舎が「うごく八百屋おおのさん」や県内外のイベントで農林産物を販売、令和7年度売上額は6,260万円、高い実績を維持
- ・ふるさと納税返礼品で、米やサトイモなどの農林産物を販売、令和7年度の農林産物の返礼額は1億8,757万円
- ・令和11年春の中部縦貫自動車道の県内全線開通を見据え、販路の多様化と販売先の確保・拡大を図る必要がある。



施策の方向性

(1) 道の駅での販売促進

- ・道の駅「九頭竜」と「越前おおの荒島の郷」における農林水産物の販売促進
- ・道の駅産直の会への加入促進
- ・道の駅周辺での体験農園による農林水産物の販売促進

(2) 越前おおの農林楽舎による販売促進

- ・越前おおの農林楽舎による農林水産物の販路拡大を支援
- ・県内外イベントでの農林水産物の販売を支援
- ・農家の収入につながる新たな農林水産物の普及支援

(3) ふるさと納税返礼品・七間朝市やその他販売先の確保

- ・ふるさと納税返礼品での農林水産物の販売促進
- ・七間朝市への出荷による農林水産物の販売促進
- ・その他の新規販売先の確保の推進



第3章 施策の展開方向

分野3 「農山村」の振興

基本方針 …… イキイキと暮らす農山村づくり（農地の維持と継承）

5年後の
ありたい姿 …… 農業者や集落の活動により、農地が保全され、住んでいる人がイキイキと暮らし、活力ある農山村が引き継がれています。

基本施策 ……

- 施策1 農地の維持と継承
- 施策2 農山村の継承
- 施策3 農業生産基盤の整備
- 施策4 農山村を守る鳥獣害対策

施策1 農地の維持と継承

< 分野3 「農山村」の振興 >

現状と課題

- ・新規就農希望者は増加しているが、希望に合った農地の確保が困難
- ・農業者の高齢化に伴い、十分に活用されていない農地や草刈りなどの維持管理にとどまる農地が増加
- ・農地集積率は高水準だが、担い手への集積は平坦地を中心に進み、中山間地域の条件不利地での集積や、農地交換による集約化が課題
- ・農山村の集落では、中山間地域等直接支払事業や多面的機能支払交付金事業を活用し、住民が協力して法面の草刈りや水路の泥上げなどの集落活動を実施することで、農地の維持管理と農山村環境を保全

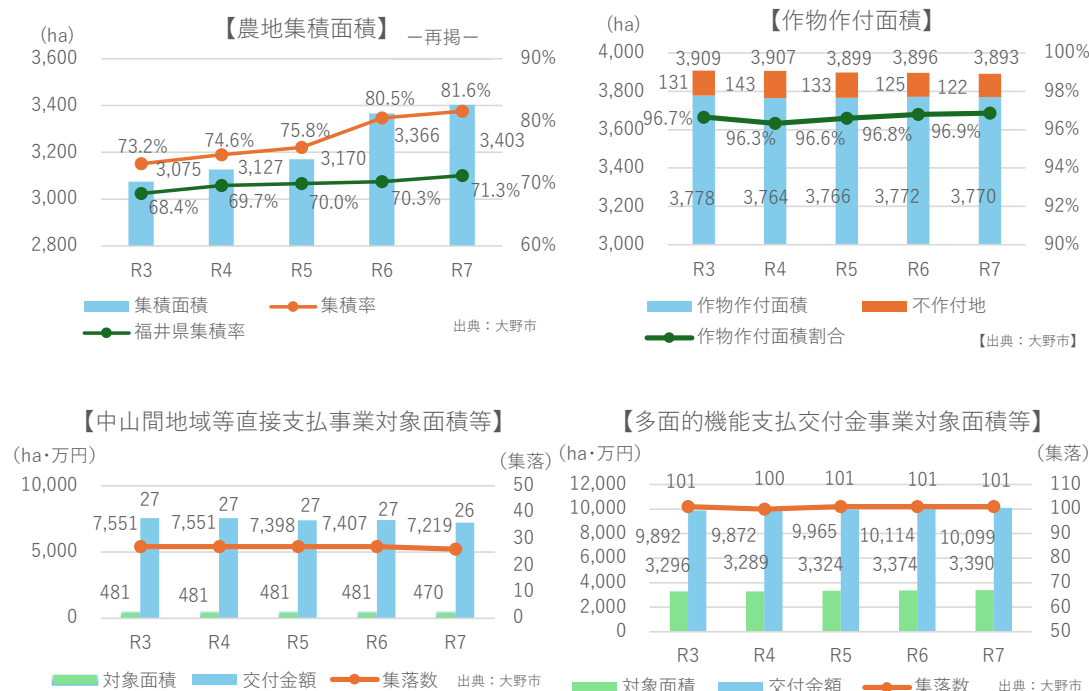
施策の方向性

(1) 農地の維持と有効活用

- ・農業振興地域制度を活用した土地の合理的利用と優良農地の確保
- ・地域計画と農地中間管理事業を活用した農地の集積・集約の促進
- ・人工衛星画像を活用した農地パトロールなどによる農地の状況把握と遊休化のおそれのある農地の早期発見・対応
- ・所有者が管理できない農地の情報提供と農地の維持・活用
- ・大野市地域農業サポートセンターによる小区画農地の農作業支援

(2) 農地の多面的機能の維持

- ・多面的機能支払交付金事業の活用による集落活動（草刈・水路の泥上げなど）への支援
- ・中山間地域等直接支払事業の活用による集落活動への支援



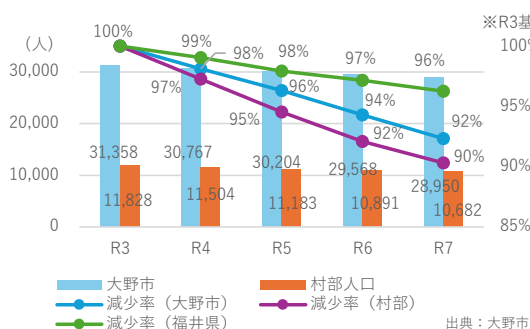
施策2 農山村の継承

< 分野3 「農山村」の振興 >

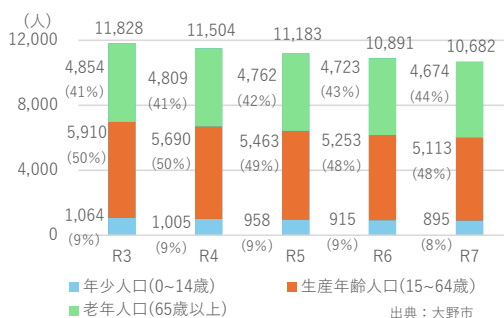
現状と課題

- ・農山村集落では、県や市全体の減少率を上回るペースで人口が減少、少子高齢化や若者の流出が進行
- ・集落の中心的な担い手世代の高齢化や若者の減少により、草刈りや水路清掃などの共同活動への参加者が減少、農地や水路などの維持管理が困難
- ・地域行事や伝統文化の継承を担う人材が不足、農山村コミュニティの活力が低下、地域資源の維持も困難
- ・コミュニティ機能の弱体化により、災害時の助け合いや見守り活動など地域の相互扶助機能の維持が困難、地域ぐるみによる取組が必要

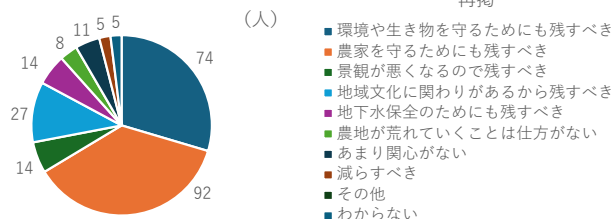
【人口推移（市内全域・村部）】 一再掲



【村部の人口構成】



【大野市内にある田畑について（市民対象）】 一再掲



施策の方向性

（1）農山村の活性化

- ・地域交流センターや公民館を中心とした住民自治による集落活性化や地域づくり活動を支援
- ・農村RMO（農村型地域運営組織）の取組による地区・集落の活性化に向けた話し合いや合意形成を支援
- ・集落営農組織を中心とした地域住民の話し合いを支援
- ・多面的機能支払交付金事業による地域資源の質的向上を図る共同活動を支援

（2）新たなチャレンジ支援

- ・地域資源を活用した農林水産物の加工・販売などに必要な施設や設備の導入を支援
- ・体験農園、農家民宿や農家レストランなどの新たなチャレンジを支援



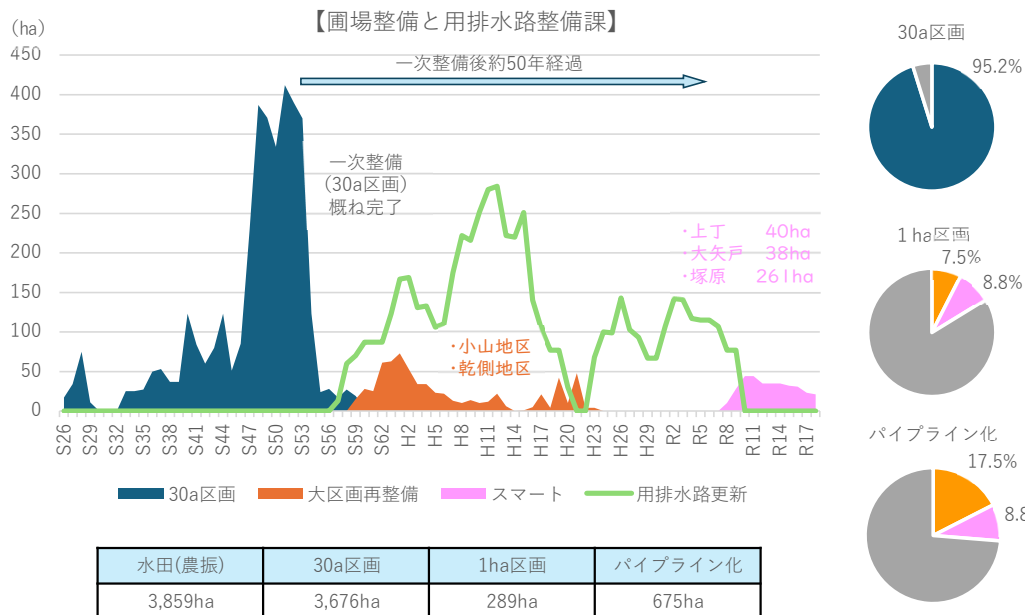
農村RMOの写真
(8・20開催予定)

施策3 農業生産基盤の整備

< 分野3 「農山村」の振興 >

現状と課題

- ・耐用年数が経過した農業用施設が年々増加、その更新に多額の費用が必要
- ・局地的な豪雨をはじめとする異常気象により、農地や農業用施設の被害が増加、これまで以上に農業施設の適切な管理・維持が重要
- ・作業効率の低い小区画圃場の大区画化を進め、大型機械の導入による作業の省力化の推進が必要
- ・大雨時の下流域における浸水被害の軽減に向け、水田の雨水貯留機能を高め、流域治水機能の強化が必要



出典：福井県

施策の方向性

(1) 農地や農業用施設の維持と更新

- ・農道や水路などの農業用施設の適正な管理と維持を支援
- ・大区画や機能性向上を目的とした土地改良事業への支援

(2) 災害に強い農地整備

- ・農業用施設の整備や改修への支援
- ・田んぼダムの推進
- ・被災した農地や農業用施設の復旧支援

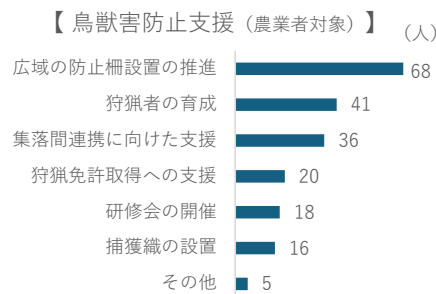
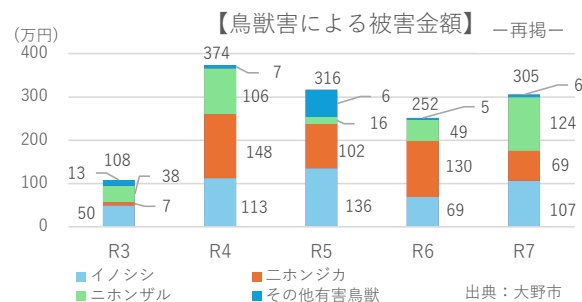
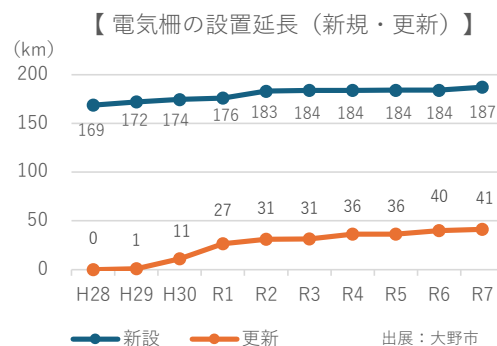
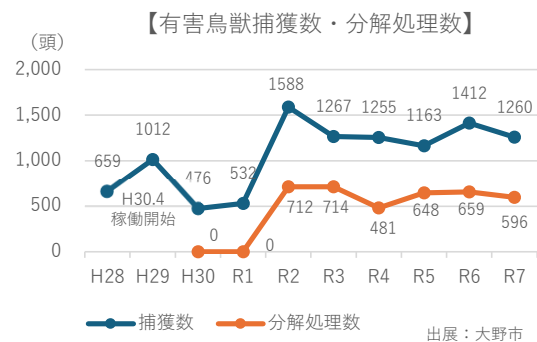


施策4 農山村を守る鳥獣害対策

< 分野3 「農山村」の振興 >

現状と課題

- ・電気柵の管理、草刈り、追払い活動は、担い手の高齢化により継続が困難に、電気柵の更新費用の負担が大きく更新が困難な地区もある。
- ・鳥獣害対策は、集落だけでは効果が限定的、地域ぐるみの対策が必要
- ・イノシシによる農作物被害が続く中、サルによる園芸作物被害が増加
- ・猟友会会員の高齢化が進み、地域によっては捕獲活動そのものの維持が困難、若手人材の確保と育成が必要
- ・有害鳥獣の分解処理施設の老朽化が進行、計画的な更新・改修が必要



施策の方向性

(1) 地域ぐるみの鳥獣害の防止対策

- ・侵入防止策の整備支援
- ・地域ぐるみの監視や追払い活動への支援
- ・地域住民向け講習会の開催
- ・緩衝帯の整備による生活圏への出没防止

(2) 鳥獣の捕獲対策

- ・実施隊パトロールによる被害防止
- ・狩猟免許取得費用の支援による若手捕獲従事者の育成
- ・分解処理施設の適正な維持管理と更新



第3章 施策の展開方向

分野4 「食守」の振興

基本方針 …… 食守が引き継がれている越前おおの（地産地消と食育活動の推進）

5年後の
ありたい姿 …… 家庭の食卓に越前おおの産農林水産物を使った料理が並び、みんなが笑顔で食べています。
越前おおのの食文化が次世代に引き継がれています。

基本施策 …… ● 施策1 こどもの食と農の学びの充実
● 施策2 「大人の食守」の推進
● 施策3 地産地消の推進
● 施策4 越前おおのの食文化の継承

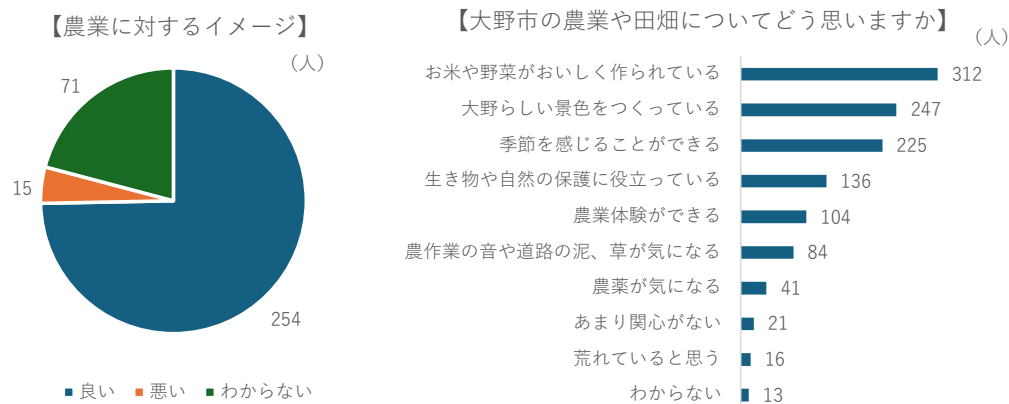
施策1 こどもの食と農の学びの充実

< 分野4 「食守」の振興 >

現状と課題

- ・ 保育所や認定こども園では、園庭での野菜栽培や近隣農地での農業体験を通じて、こどもが農業を身近に感じられる取組を実施
- ・ 小学校においても、校内での野菜栽培や校区内での農業体験を実施
- ・ 児童・生徒（小学6年生・中学3年生）へのアンケートの結果、回答の74%が農業に対して良いイメージを持っている。
- ・ これまでの取組により、こどもの食と農の重要性に対する理解の醸成が進んでおり、今後もこれらの水準の取組を継続していくことが必要
- ・ 一方で「食」によって自らの身体を守る「食守」の考え方は、十分に浸透していないことから、「食守」の浸透を図る取組が必要

< 小学6年生・中学3年生対象アンケート結果 >



施策の方向性

(1) こどもに食と農の重要性を伝える取組

- ・ 小中学校や保育所・認定こども園における、食と農の重要性を伝える教育や保育の充実
- ・ 小中学校の授業や保育所・認定こども園の保育、給食などを通じて食と農に対する理解を醸成
- ・ 「こどもの食守」講座により、こどもの食と農の重要性に対する意識を醸成

(2) 農林漁業を「知る・見る・食べる」体験の提供

- ・ 学校や保育所・認定こども園における「知る・見る・食べる」体験（農林漁業体験教育）の充実
- ・ 学校や保育所・認定こども園における農園・菜園活動や、近隣農地での体験農園の充実
- ・ 食と農の重要性を親子で学べる場の提供



学校の農業体験

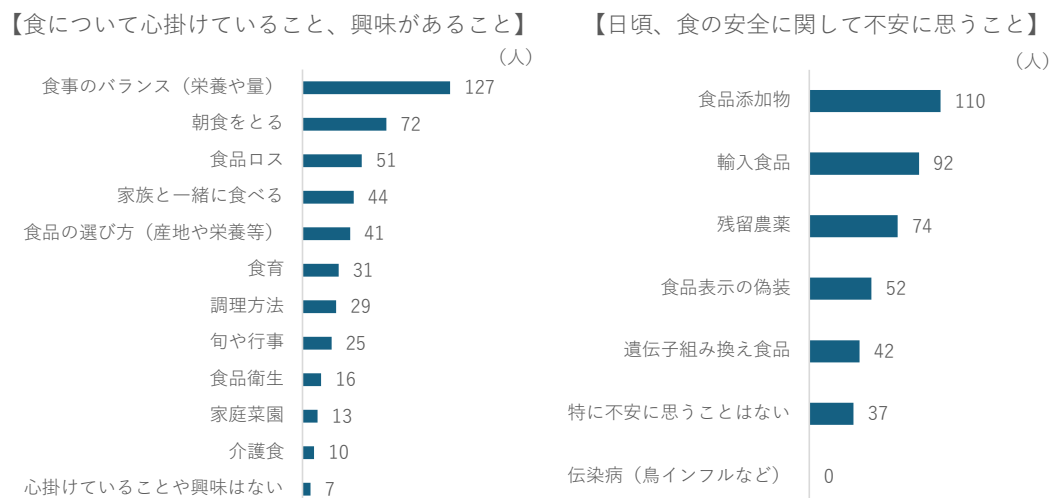
施策2 「大人の食守」の推進

< 分野4 「食守」の振興 >

現状と課題

- ・国は、健全な食生活の実現に向けて、「大人の食育」を新たに推進
- ・食において、栄養や食事の量などバランスを心掛けている市民は多い。
- ・若年層（20代～30代）では、朝食の欠食や栄養バランスの偏った食事が見られる傾向にある。食生活の改善に向けて、食と農の重要性に対する意識の醸成が必要
- ・本市のような寒冷地域では、塩分を過剰に摂取する傾向が見られることから、農林水産物を使った減塩料理による食生活の改善が必要

< 市民対象アンケート結果 >



施策の方向性

（1）「大人の食守」の普及啓発

「大人の食守（食育）」の広報活動による普及啓発

（2）大人の食と農林漁業への理解の醸成

- ・「大人の食守」講座により、食と農林漁業に対する意識を醸成
- ・田植えや稲刈り、そば打ち体験などの農林漁業体験を支援
- ・越前おおの産農林水産物と減塩に関する食生活改善料理の普及



健康ランチバイキング



食守フェスタでの食生活改善料理の提供

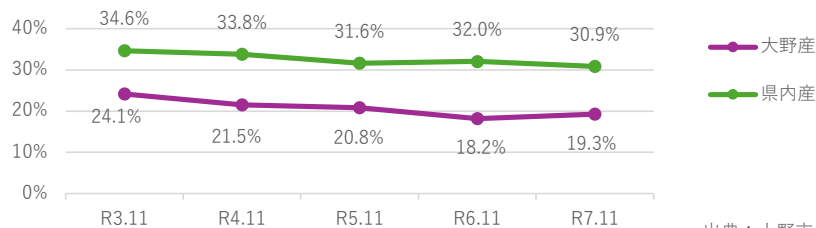
施策3 地産地消の推進

< 分野4 「食守」の振興 >

現状と課題

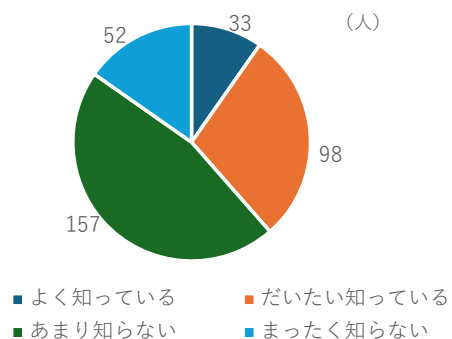
- ・学校給食における越前おおの産野菜の使用割合は低下傾向にあり、令和7年度は19.3%となったことから、提供拡大に向けた取組が必要
- ・「機会があれば越前おおの産を使用している市民」が半数（49%）で、地産地消が進んでいるとは言えない。店舗などでの販売スペースの拡大による、購入機会を増やすことが必要

【学校給食における地場産食材使用状況】



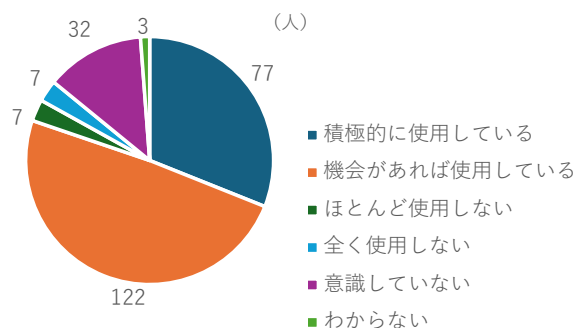
<小中学生対象アンケート結果>

【大野産野菜のおいしい時期は】



<市民対象アンケート結果>

【大野産の野菜の使用は】



施策の方向性

(1) 食卓と生産現場の距離を縮める取組

- ・生産者と消費者の交流機会の提供
- ・生産現場の見える化の推進

(2) 給食における地産地消の取組

- ・小中学校や保育所・認定こども園の給食における越前おおの米の使用促進
- ・小中学校における郷土料理や旬の野菜を使った「ふるさと給食」の充実
- ・小中学校や保育所・認定こども園における越前おおの産農林水産物を使った給食の提供拡大
- ・越前おおの産農林水産物の提供拡大に必要な学校と農家との調整を支援

(3) 越前おおの産農林水産物の販売促進

- ・道の駅、越前おおの農林楽舎、ふるさと納税返礼品や七間朝市などの多様な販売先の確保による販路拡大
- ・スーパーマーケットなどにおける越前おおの産農林水産物の販売スペースの拡大促進

施策4 越前おおのの食文化の継承

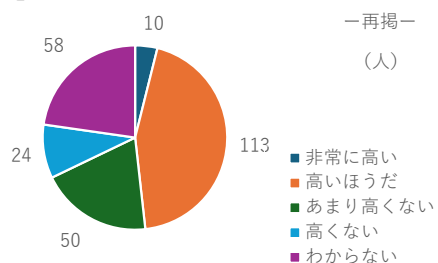
< 分野4 「食守」の振興 >

現状と課題

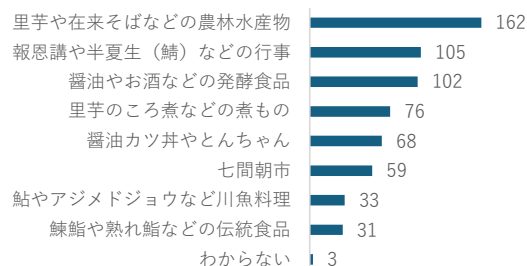
- ・アンケートの結果、63%の市民が食文化の意識が高いと考えている。
- ・食文化の講座への参加を希望する市民が多く、食文化への関心が高い。
- ・サトイモや在来そばなどの農林水産物を大野らしい食文化と考えている市民が多く、食守フェスタや料理教室などによる普及啓発を継続することが必要

<市民対象アンケート結果>

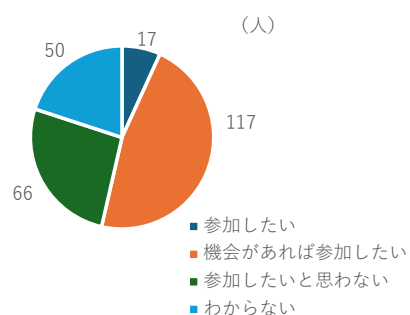
【市民の食文化に対する意識について】



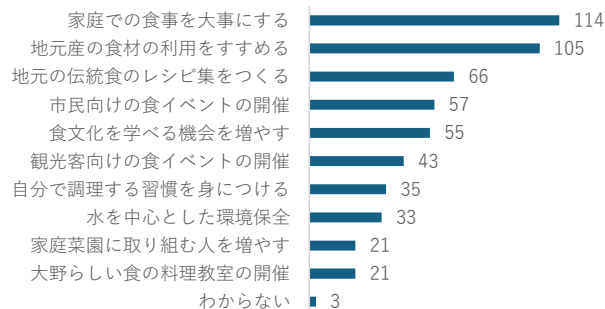
【大野らしい食文化は何だと思いますか】 (人)



【食文化についての講座があれば参加しますか】



【大野の食文化を未来に伝えるために必要なこと】 (人)



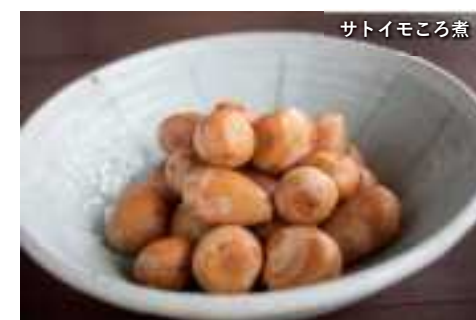
施策の方向性

(1) 郷土料理の継承

- ・郷土料理の体感イベントの実施
- ・郷土料理に関する料理教室の開催促進

(2) 越前おおのの食文化の普及啓発

- ・食守フェスタによる普及啓発



第4章 ビジョンの評価指標

(1) ビジョンの評価指標

本ビジョンでは、各施策の進捗や成果を適切に把握・評価するため、評価指標を設定し、その推移を継続的に把握することにより、ビジョンの進捗管理を行います。なお、評価指標は、農業を取り巻く情勢の変化などを踏まえ、必要に応じて見直しを行い、より適切な指標への改善を図ります。

分野	指標名	説明	現状値 令和7年度	目標値 令和13年度	備考
分野1 「農業」の振興	担い手への農地の集積率	農地の集積により効率的な営農が行われていることを測る指標で、集積率の向上を目指します。	81.6%	83.1%	※後期基本計画 評価指標
分野2 「儲かる」 農業の推進	道の駅産直の会 農林産品部会の加入者数	販売農家の活動状況を測る指標で、加入者数の増加を目指します。	112件	120件	※後期基本計画 評価指標
分野3 「農山村」の振興	作物作付面積の割合	作物の作付けにより有効活用されている農地の状況を測る指標で、作付面積の現状の水準維持を目指します。	96.9%	96.5%	※後期基本計画 評価指標
分野4 「食守」の振興	学校給食で地場産野菜の 提供を行った量	学校給食における食材の総使用量(重量)に占める地場食材（越前おおの産）の使用量の割合	19.3%	25% (検討中)	

(2) ビジョンの進行管理

ビジョンの進行管理については、ビジョンに掲げる施策や評価指標の達成状況を毎年度、越前おおの型食・農業・農村ビジョン推進委員会および大野市食育推進会議へ報告します。さらに施策の改善に向けた評価・検討を行い、その結果を新たな事業の企画立案や計画の見直しなどに反映します。